

病防第68号
令和2年6月11日

各関係機関の長様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記

令和2年度病害虫発生予察注意報第2号
(モモ せん孔細菌病)

令和2年度病害虫発生予察注意報第2号

令和2年6月11日
岐阜県

作物名 モモ

病害虫名 せん孔細菌病

1 発生地域 飛騨及び東濃地域

2 発生時期 6月中旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 飛騨地域の定点調査3地点における5月下旬の発病枝率(春型枝病斑)は3.5%と、平年(0.4%)と比較して高かった。また、春型枝病斑の発生は、飛騨地域の定点以外の11地点及び東濃地域の1地点のうち9地点で認められ、今後、感染が拡大すると考えられる(図1)。
- (2) 6月上旬の調査において、飛騨及び東濃地域の調査ほ場19地点のうち12地点で発病葉の発生が認められた。
- (3) 前年秋期の台風の強風等により病原菌が広範囲に飛散及び感染し、越冬伝染源が多かったと考えられる。
- (4) 一部の果樹園では、幼果にも初期病斑が観察されている(図2)。
- (5) 名古屋地方気象台の1か月予報(6月4日発表)では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、さらなる感染の拡大が懸念される。

5 防除上の注意事項

- (1) 発病枝(春型枝病斑)や周辺の新梢葉の発病部は、伝染源となるため見つけ次第除去する。
- (2) 発病果は二次伝染源となるので、除去を徹底する。多発ほ場では仕上げ摘果を丁寧に行い、薬剤防除をしたうえで速やかに袋かけを行う。
- (3) 耐性菌の増加を抑制するため、同一薬剤の連用を避け、作用機構の異なる薬剤を交互に使用する。なお、農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター)

(4) 病原菌は葉や果実の自然開口部（気孔など）、モモハモグリガや風雨等による傷口から侵入する。今後の発病を抑制するため防風ネット等による防風対策や害虫を対象とした薬剤防除をあわせて行う。

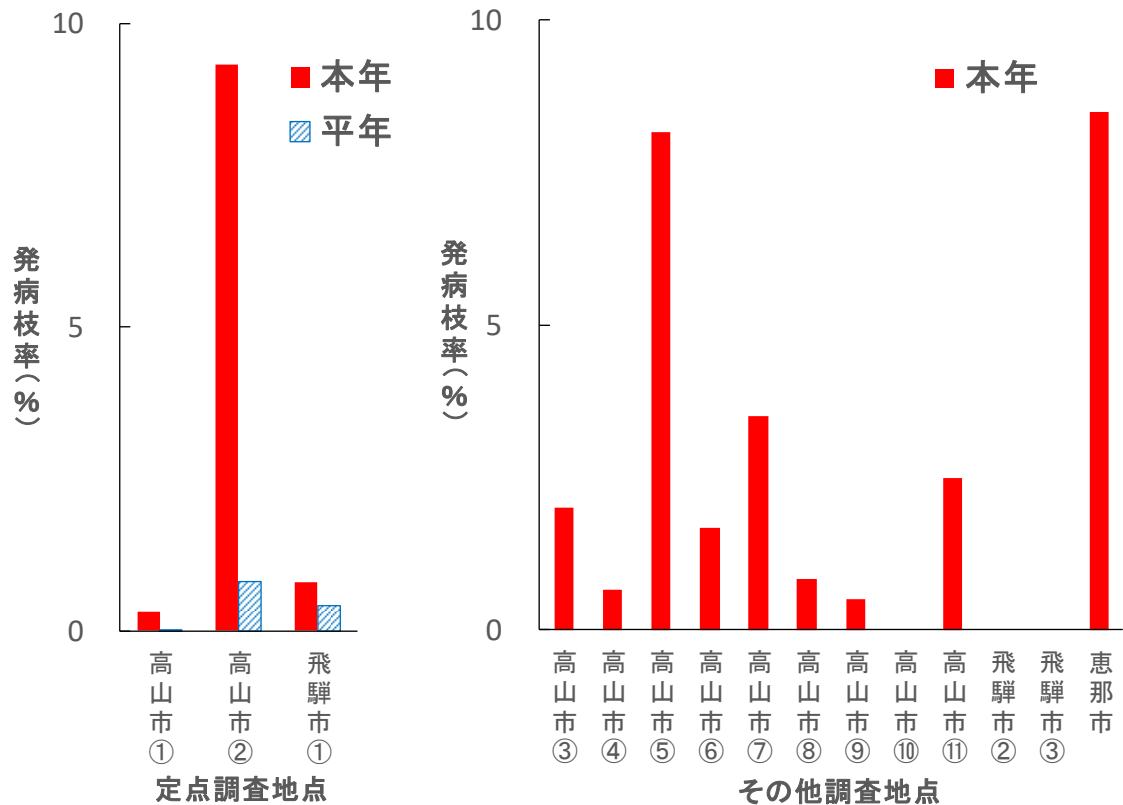


図1 モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生状況 (5月下旬調査)

※ その他調査地点については平年値なし



春型枝病斑



葉の病斑



幼果の初期病斑

図2 モモせん孔細菌病の病徴